

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390103051		
法人名	株式会社夢眠ホーム		
事業所名	夢眠くまもとにし		
所在地	熊本県熊本市西区城山下代3丁目2-6		
自己評価作成日	令和4年 11 月 日	評価結果市町村報告日	令和5年 1月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模なグループで共同生活を送り、職員の援助を受けながら入居者同士で助け合って生活を行っています。体操等などの機能維持訓練はあるものの、その他の時間は様々な活動にご利用者のペースで参加しながら過ごして頂いています。  
夢眠ホームくまもとにしは、連携医療機関が近くにある為、急変時には速やかに医師に報告し指示を受けて対応している。ADLの維持や個々の温存機能を生かした生活を送って頂けます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

運営体制の変更もあり新しい体制で動き始めたとはいえ、以前からの職員・入居者とも変わりなく、家族との関わりも大切にしたい穏やかな毎日が継続しています。入居者の入替りもありましたが、思いや意向を表すことができる方も増え、日常的に共用部分をモップ掛けしたり、雑誌や新聞を読み、音楽を楽しみ歌う姿も見られる等、それぞれの生活が見える事業所でした。職員の方からは「入居者の笑顔のために寄り添って仕事をしています」の声もあり、日頃から入居者の事を思い、試みながらケアに臨む姿がうかがえました。連携する協力医には通院だけでなく訪問診療部もあり、24時間の看護師対応、往診等、より安心している医療体制が整っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和4年12月 9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有できるよう努力しており、理念の掲示や会議等での周知を行っている。理解しやすい理念を基に自分を見つめなおし実践につなげていくよう努めている。		理念は新たな法人理念を引継ぎ取組まれる様子が聞かれました。理念を事業所として入居者の生活の場に繋げるような共有についての今後の取組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今現在は新型コロナウイルスの影響で交流等が難しくなってきたが定期的な運営推進会議は継続している。以前は、地域の行事等の参加していた。	法人体制は変わったものの、散歩時の挨拶等、地域との関わりは以前と変わらない交流を行っている。コロナ禍であり運営推進会議は毎回対面開催が難しいが、集まった際には事業所への意見や疑問等についても答え、地域の中にある事業所であることを伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、他施設の事業所と合同での会議を行っていたが、新型コロナウイルスの影響で出来ていない。運営推進会議で認知症についての理解を深めて頂き、地域の集會等で情報を共有して頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ささえりあ三和さんに参加をお願いしている。	法人体制は変わったものの、地域との関わりは以前と変わらない交流を行っている。コロナ禍であり運営推進会議は毎回対面開催が難しいが、集まった際には事業所への意見や疑問等についても答え、協力関係を構築している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1回、地域の代表からなる運営推進委員会にて状況報告し協力を得ている。	コロナ禍である近年は感染症対策による連携も多くなった。運営推進会議には地域包括支援センターからの参加がある。法人体制の変更もあり、今後改めて協力関係の構築に取組む予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を3か月に1回行い身体拘束防止に取り組んでいる。やむを得ない場合は、家族様と協議し同意を得て熊本市に報告している。	職員会議等も利用し身体拘束防止委員会での取組みを共有している。今年度は身体拘束を学ぶと共に指針や基本的な考え方、「言葉の乱れは虐待の始まり」を共有し、事例による研修等を行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で事業所内での研修会を行っている。会議の際に介助時虐待が行われていないかの話し合いも行き、言葉による虐待という点に関しても再度周知をおこなうようもしている。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修会も事業所内でを行い、理解し支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、内容をしっかりと説明し不明点なども解決するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等があった際は、職員に周知や話し合いを行い反映させている。	感染症リスクレベルを検討しながらできるだけ家族の面会を受け、その際は管理者・職員と話すことで意見等を表せる機会を設けている。面会制限を余儀なくされる時期もあったが、入居者の日々の状況は家族へ連絡し、意見の出しやすい関係を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝行っているカンファレンスや、毎月の定例会議等で職員の意見聞き話し合いをおこなっている。その際に出た意見や提案を反映させるようにしている。	管理者も日頃のケアにあたっており、職員と関わっていることから、日々のミーティングや勤務中に職員からの意見や提案を聞く体制が整っている。本部からも毎月役員の訪問があり、管理者・職員共に直接意見を述べる機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握している。相談がある時はゆっくり聞く時間を設けて向上心を持って働くことができるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在新型コロナウイルスの影響で法人外の研修には参加できていないが法人内の研修は職員本人の希望に沿ったものを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナでの感染防止の為今年度はスカイプを使った交流会や勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各個人の生活歴やニーズに応じて対応を行っている。御自分で意思を伝えられない方はご家族様にお聞きし少しでも生活の質が上がるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に家族様より情報を得て困っていることがあれば家族様の要望に耳を傾けながら関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のご家族様と状況報告の電話やご面会に来られた際にお話しをし必要なケアについて情報を聞きサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割分担を行い、できる事は協力して共同生活を行いながら残存機能の維持に努めている。職員とご利用者様で支えあいながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と情報共有をしながら、共に過ごす時間を大切に頂く。ご面会が可能な時期は、居室にて家族様と過ごして頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在新型コロナウイルスの影響でご面会はできないがお電話でお話をされたり、お手紙でやり取りがあったりと関係性を継続できるよう努めている。	現在はコロナ禍でもあり、気軽な来訪・外出による関係継続の支援は難しい状況であった。長く通院しているかかりつけ医への訪問時に知人と会ったり、感染レベルが低い時期には外出による支援等、環境・入居者それぞれに応じた対応を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関係を保てるよう、職員が介入しながら支援を行っている。共有スペースで皆で談笑する時間を毎日設けている。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に立ち寄って頂けるよう声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りも行うが、生活の中で本人の思いやご意向があった場合は情報共有し、困難な場合は本人の生活歴やご家族に聞き取りを行っている。できるだけ本人本位に検討や実施を行っている。	現在の入居者は思いを表すことが出来る方も多くみられるため、職員との日々の会話や寄り添いで意向を把握している。入居者の生活歴や趣味も把握し、入居者の笑顔が見られるよう試行する姿もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様、サマリーなどを参考にしながら聞き取りを行い本人様が大切にしているものが何なのかを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康観察や日中のホールでの活動の様子を参考にしながら不穏なく暮らしていただけるようお手伝いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で毎日カンファレンスを実施しご家族様の意見もお聞きした上で現状に即した介護計画をさくせいしている。	日々の介護記録により入居者の状況を共有し、毎月の会議時に全入居者の状況や困りごと等を報告・共有している。モニタリングはケアマネジャーが中心となって行う。家族へも意向を確認し、入居者それぞれに即した介護計画を作成している。	新しい体制のもと業務内容等の見直しにも取り組まれている様子が聞かれました。これを機会に理念に繋がる介護計画や記録について職員間で共有する機会作りも良いのではないのでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやミーティング等で話し合いを行い介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症等の病状の進行により、細かい状況の変化でも、その都度話し合いご家族様に報告を行った上で支援を行っている。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの為外部との交流は出来ない為 交流等はできないが話し合い等を行い本人様と共に散歩等を行い支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣に系列のクリニックがある為定期的な受診介助や往診にて医療と連携し、支援を行っている。	入居時の希望も確認するが、現状は協力医への通院を行っており、寝たきり等身体状況に応じて訪問医療も行っている。専門科は基本的に家族による通院をお願いしており、家族の希望があれば往診も受入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師との相談や状況報告の元適切な受診ができており、常駐の看護師が不在の場合は、クリニックの看護師、訪問の看護師と連携して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急遽の入院にも対応できるように内服薬や既往歴など本人の状況をまとめた緊急連絡医療シートを作成し、病状によって医療連携をしている病院もある。退院後も情報の共有を行い、適切なケアをおこなうよう務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」「看取り介護に関する同意書」を入居時点で説明し、看取りが必要になった場合は延命治療をするのか担当医とご家族様と話し合いを行い寄り添ったケアに努めている。	入居時に事業所の対応について説明し、本人・家族の希望があれば受け入れている。実際にその時期を迎える際には、医師やその他協力機関と話し合いを重ねながら支援を行っている。系列クリニックの他、訪問医療も充実した環境である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故等のマニュアルの作成や職員会議などで対応の仕方や対策を考え周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階の防火訓練を行い災害に対しても対応できるようにしている。災害時のマニュアルを作成している。	年2回、昼・夜想定で防火訓練を行っている。有事の際には2ユニットで協力した体制を持てるよう職員間で話題を持つこともある。緊急連絡網についても確認する機会がある。消防署からの指導を周知し、図面訓練も行っている。	

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのひとらしさを大切にして人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。	職員の介護歴も長く、これまでの経験等からも今のところ心配な事例はない。入居者の尊重とプライバシーは虐待・身体拘束に繋がる懸念があることを念頭においたケアを行っている。スピーチロックについて話す機会も持っている。	事業所全体で「虐待・身体拘束に繋がる懸念となる」ものとして取組まれています。会議等を利用し、「他の人が聞いたら・見たらどうか」等、具体例を持った研修の継続に期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日常会話の中で思いをくみ取り実践していけるように努めている。自己決定を促せるよう会議等で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変動するご利用者様の表情を読み取れるよう関わり合いを大切に寄り添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットを実施し、お化粧品等をご自身で行っていただいている。髭剃り等もご自身で行っていただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウイルスの為職員と一緒に食事をとることは出来ないが、食事が進むようにメニューの説明を行っている。希望があれば、好みの物を食べて頂けるようにご家族様のご協力を頂きながら支援している。	系列施設で調理された食事を事業所で温めたり入居者の食事形態により刻んだり個々に合わせて提供している。職員間毎日の行き来があるため、食事についての意見・要望・感想等は日々伝えている。季節を考えた献立も提供され、行事の際はおやつの手作り等も取入れている。	運営体制が変わったことから、グループホームの特色である「生活」の場としての食事に関する取組みが少し希薄な様子もうかがえます。潜在能力の維持に取り組む為にも、季節感を味わうための機会作りの取組みに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事は記録しており、栄養バランスの整った病院食を食べていただいている。食べやすいよう、とろみや刻み食とう柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	異常があった際は連携している歯科医に報告し受診や往診をうけている。本人の能力で出来ない範囲は歯科医の指示のもと仕上げ磨き等の支援に努めている。		

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身で排泄を行っていただけのご利用者様は極力見守り対応を行い、一部職員が支援を行う。寝たきりのご利用者様以外は、夜間もポータブルトイレやトイレの使用を促している。	出来るだけトイレでの自然な排泄が継続できるよう支援している。入居者自身がトイレでの排泄を希望される場合は二人介助で誘導し、マッサージ等も行っている。排便についてコントロールが難しい方には看護師の意見も得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や水分摂取等、職員内でカンファレンスを行い看護師にも相談している。記録も残しており、排便コントロールを円滑に行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた時間の中で、希望に添えるように特別な日には入浴剤を使用し楽しんで頂けるよう支援する。	週2～3回を基本とした入浴を支援している。入浴後の服の選択は入居者に確認し、選択の場面も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を把握しお昼寝の時間などを設け、本人の意思を尊重した支援を行っている。ゆっくりと休んでいただけるよう環境整備も都度行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、内容や効能を把握できるよう心掛けている。医師の診断で処方された薬であっても、変化や様子を観察し、何かあった際はすぐに報告できる体制をつくっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染対策等に留意しながら、換気等も行い極力本人の好まれるレクリエーションを行えるよう心掛けている。会話の中で本人のしたい事をくみ取るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は外出等を行われていたが現在はコロナの為、外出は避けている。近隣への散歩等を行い、季節を感じていただいている。	現在気軽な外出が難しい状況下であり、以前のような買い物等に出かける機会も見られないが、近隣の散歩は継続している。家族との外出や面会も限られているため、携帯電話を持っている入居者は家族との会話等で関わりや繋がりを持っている。かかりつけ医は基本的に通院であるため、定期的な外出の機会となっている。	

グループホーム 夢眠くまもとにし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族様が管理をされている。必要な場合、本人希望があった場合は、ご家族様に連絡するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時期によってご家族様にお手紙を書いてもらったりして来所が出来ないご家族様には郵送にて手紙を送る等の対応をしている。本人の希望やご家族様からの電話は取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を貼ったり、ホール内に季節を感じれような貼り絵等を飾っている。快適に過ごして頂けるように温度管理や加湿を行いコロナの感染対策も行っている。	ホールには入居者も一緒に作成した作品が飾られている。入居者もモップ掛けやテーブル拭き等、生活の一部として行ってくださる姿も見られる。温度管理や空調、加湿器の利用等、環境・感染対策も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で談笑ができるように同席にしたり、ホールにてお化粧をされたり歌を聞いたりと思い思い過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や思い出の写真等をお持ち込みされているご利用者様もいらっしゃる。環境整備を行いながらも本人の意向に沿ったお部屋のレイアウトをおこなっている。	2ユニットの居室の作りは違うが、それぞれの入居者の使い慣れた生活用品が持ち込まれ、家族の関わりも見える。身体状況でふらつき等懸念がある場合には、重めの家具を検討する等安全対策も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症のご利用者様も分かりやすいようにトイレ等の張り紙を行い、手すり等の設置を行っている。できるだけ自立した安全な生活を行えるよう配慮している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム夢眠くまもと

作成日 令和5年1月 22 日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念（尊重・尊厳・尊信）が曖昧で分かりにくい	スタッフ全員が理念を把握し、理解する	会議やカンファレンス、申し送りノートを通じて理念について詳しく説明する	1カ月
2	4	理念に繋がる介護計画や介護記録があまり出来ていない	理念に基づく介護計画を立て、介護記録を作成する	月1回の定例会議にて理念に繋がる介護計画、介護記録について話し合い、共有する	6カ月
3	6	虐待、身体拘束の研修を行っているが、具体例等の1歩先に踏み込んで話し合っていない	今よりも虐待、身体拘束についての知識を深め、意識を高める	年間計画を立て、今までにあった、また聞いたことのある具体例をスタッフ間で意見を出し合う	3カ月
4	6	食事に関する取り組みが希薄である	食を通じて季節を感じ、楽しんでいただく	季節毎に正月、節分、花見等の行事食を提供し、季節を感じていただく	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。